

★ まちづくり ニュース



ホームページ

<https://tokiwadai.net/>

239号

★ 2021年8月27日

常盤台の景観を守る会
常盤台まちづくり委員会

事務局 島田晴子 tel・fax 3960 - 3869

— 都心低空飛行問題について —

○ 羽田問題の訴訟 第三回口頭弁論

9月22日(水) 15:00 103 法廷
忘れずに傍聴に行きましょう。

○ 羽田見直し国会議員連盟と 住民団体との意見交換会

8月25日(水) 13:00 からZOOMで行われました。松原仁、海江田万里、あくつ幸彦氏等国会議員 10名程が参加、2時間近く羽田問題について意見交換しました。市民側約 100名。

印象に残ったことを幾つか列記すると

- ・ 騒音下で窓を開けられなかった品川区の保育園三カ所でコロナのクラスターが発生
- ・ 議員達に現地視察を要請したい
- ・ 「固定化回避有識者委員会」は単なる時間稼ぎの組織に成り下がっている
- ・ 委員会の平田輝満氏の論文では 88 便の発着可能となっている

○ 都議会議員連盟も

9月9日(木) 14:00~都庁でという住民団体との意見交換の申し入れがありました。

先日の都議選でも渋谷区では新航路反対を明言した候補がトップ当選したように、この問題が選挙では大きな試金石になっています。

都議会議連との話合いに参加希望の方は8月31日までに以下へメール申し込んで下さい。羽田問題解決プロジェクトメール：
teikuu20190719@gmail.com

メールタイトル：9月9日都議会議連参加希望
住所 氏名 お忘れ無く
参加人員制限などは未定です。



○ この国は自助の国でした

新型コロナウイルスの蔓延、爆発的増加に対して、驚くべき政府の決定が行われた。

中等症の患者は原則自宅療養とする、というもの。「自宅療養」とはまやかしの表現で、入院すべき患者が、入院できないばかりか隔離する施設にも入れず、自宅に放棄されている状態を言うので、正確には「自宅放置」というべきなのだ。彼らには何の投薬も治療もない。その人数たるや2万人を越えている。中には救急車も間に合わず、急激な病変に家族の看取りもないまま亡くなった人や、入院できず出産するも赤ちゃんの命が失われるという痛ましいケースもあった。

倉持仁医師が「菅総理と小池都知事は即刻辞めて頂きたい」と激しい言葉で非難したのは当然だった。政府は慌てて表現をいろいろ取り繕ったが、原則は未だに変えていない。

都合が悪くなると、悪くする基準を変えてしまえばよい、とするごまかしが横行している。福島放射能測定値しかり、都心低空飛行のエルデン値採用しかり、である。

総理は「自助・公助・共助」の順だとかつて述べたが、いまや誰に言われなくても「自分の命は自分で守れ」となってしまった。これが先進国とは名ばかりの日本の実態である。税金を払うのがバカらしくなってくる。

海外ではこの日本の実態は知られているのだろうか。知りながらオリパラで日本国民に負担を押しつけているのだろうか。再来日したバツハ会長に尾身氏が厳しい言葉を国会で投げつけたのを同感の思いで聞いた人は多いだろう。

せめてパラリンピックを中止し、選手村を収容施設に転用すれば何人も命が救われたはずだ。選手や国民の努力は評価しても、コロナを制圧せず強行したオリパラは成功とは思えない。

政府の要請と国民の見解

政府「頼むからお盆の帰省は止めて下さい」

国民1「中止の考えはない。強い警戒感を持って帰省に臨む」

国民2「バブル方式で帰省する。感染拡大の恐れはないと認識している」

国民3「帰省を中止することは一番簡単なこと、楽な事だ。帰省に挑戦するのが国民の役割だ」

国民4「安心安全な帰省に向けて全力で取り組む」

国民5「コロナに打ち勝った証として帰省する」

国民6「(帰省は)今更やめられないという結論になった」

国民7「『帰省するな』ではなく、『どうやって帰省できるか』を皆さんで考えて、どうにかできるようにしてほしいと思います」

国民8「もしこの状況で帰省がなくなってしまうたら、大げさに言ったら死ぬかもしれない。それくらい喪失感が大きい。それだけ命をかけて帰省する為に僕だけじゃなく帰省を自指す国民はやってきている」

国民9「家族に感動を与えたい。帰省はコロナ禍収束の希望の光」

国民10「我々は帰省の力を信じて今までやってきた。別の地平から見えてきた言葉をそのまま言ってもなかなか通じづらいのではないか」

国民11「(帰省中止要請は)自主的な研究の成果の発表ということだと思ふ。そういう形で受け止めさせていただく」

国民12「言葉が過ぎる。帰省中止を決める立場にな」

国民13「帰省が感染拡大につながったエビデンスはない。中止の選択肢はない」

国民14「(帰省について)政府は反発するだろうが、時間が経てば忘れるだろう」

国民15「帰省することで、緊急事態宣言下でも帰省できるということの世界に示したい」

国民16「帰省について限定的、統一的な定義は困難」

国民17「実家を訪問するという認識。帰省する」という認識ではない」

ある人のブログからです。余りに傑作揃いなので、全文を転載してしまいました。

野良ネコが増加中

帝都幼稚園あたりにまた野良ネコが仔猫を産んで十数匹もいるそうです。駅前の子ビス道路のあたりも増えているとか。

どちらも無責任に餌やりをする人たちの存在があるのです。中には環七の向こうからわざわざ餌をやりに来る人もいるとか。自宅の

近所の地域猫の面倒を見るならわかりませんが、遠くまで行って食べ残しの始末などちゃんとしているのか疑問です。

仔猫は可愛いし、飢えるのは不憫です。その気持ちはよくわかりますが、「まちづくりニュース」二〇六号のYさんのTNRについての記事をぜひご覧下さい。

常盤台公園のはなづくり

ほとんど雑草天国のようになってしまふ。この雨天続きとその後の酷暑のよみがいりりとで、高齢者揃いの私たちの怠け心を許してしまっているのです。

旧中央図書館で行っているワクチン接種の係員の胡散臭そうな視線を気にしながら、通りがかりに時々目に付く雑草を抜いていると、必ずにつつき蚊の襲撃にあうことも原因です。

などと書いてもやっぱり言い訳にしかなりませんね。九月に入ったら直ぐ活動することにしましょう。

区からは十一月の花苗の申し込みが来ています。昨年並に申し込むつもりですが、今年の経験では希望通りには支給されないようです。コロナ関係にそんなに予算が回っているのでしょうか。ほんのわずかな違いに過ぎないでしょうに……

今年の長雨で、都内の公園の中にオシロカラカサタケという白い大きなキノコが生えたという報告があります。猛毒だそうなので気をつけねばなりません。幸い常盤台公園では見かけません。

キノコと言えば、サクラなどの幹に生えているサルノコシカケのようなキノコが気になります。樹木が衰えている証拠なのでしょうが。

